

case 05 **熊本県立阿蘇中央高等学校**
阿蘇市一の宮町宮地4131 (阿蘇清峰校舎)

**草原を守り、味わう
地域の恵みを生かす取り組み**

同校の農業食品科とグリーン環境科では、毎年の取り組みとして、総合的な探究の時間に阿蘇ジオパークや地域の農業について学んでいます。今年度は、草原維持活動やあか牛肉の消費拡大など、学科の特性を生かした実習を行い、阿蘇の資源の有効活用について考える機会となりました。

草原維持活動

グリーン環境科では、毎年3月に行われる野焼き実習に向けて、輪地切り、輪地焼きといった野焼きの準備を行っています。今年は9月25日(木)に輪地切り、10月9日(木)に輪地焼きを実施しました。



あか牛の育成

農業食品科では、あか牛の人工授精から出産、飼育、放牧、出荷まで一貫した実習を行っています。ストレスのない健康的なあか牛を生産するために、授業時間以外にも毎日朝夕にも飼育管理を行っています。



フランクフルトソーセージ作り

農業食品科では、昨年度、あか牛肉ソーセージ2種を製造し、地域の飲食店などに配布してアンケート調査を行いました。今年度は、高評価を得たタイプをもとに、肉の挽き方を変えた2種のフランクフルトソーセージ作りに取り組みました。

3年生5人は、12月4日(木)にカットや挽肉、塩漬けを行い、同月11日(木)には、腸詰めから包装までの工程を体験。活用が難しいとされるネック肉を使用し、部位の有効活用や地域の食の魅力学ぶ機会となりました。



あか牛レシピの提案と調理

あか牛肉の消費拡大に取り組む社会福祉科(フードデザイン選択)では、あか牛のウデ肉のビーフシチューを基本に、ハンバーグ入りグラタン、ポットパイのほか、太平燕の計3品を提案しました。タマネギを使用せず肉本

来の旨味を生かしたハンバーグや、汁と絡みやすい挽肉を採用した太平燕など工夫を凝らしており、「これまでにない肉の良さが引き出されている」との感想が聞かれました。



令和7年度
**阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業
活動報告**

「阿蘇」は、活発な火山活動により形成された広大なカルデラとその周辺に約5万人もの人々の暮らしが営まれている、世界にも例をみない地域です。
その火山と共生してきた阿蘇の人々が長い年月をかけて守り継いできた美しく雄大な景観を後世にわたって維持していくため、熊本県と阿蘇郡市7市町村は、世界文化遺産登録を目指した取り組みを進めています。

**阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業とは?**

将来の阿蘇地域の担い手である子ども達に、世界文化遺産登録を目指す阿蘇の自然や文化等の魅力に気付いてもらうため、阿蘇地域においてモデル校(中・高)を選定し、学校教育の一環としてさまざまな活動に取り組んでいただく事業です。令和7年度は5つの学校がモデル校に選ばれ、体験学習や発表を行いました。

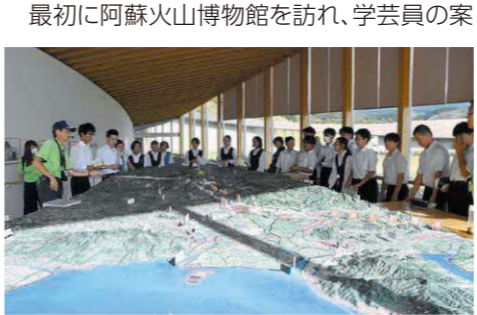
case 01 **阿蘇市立波野中学校**
阿蘇市波野大字波野3748

**火山と共生する未来へ
阿蘇の宝物を再認識**

阿蘇や波野の現状について、社会的な側面から全学年で地域学習を積み重ねている同校。今年度は、阿蘇の草原保全について学ぶため、阿蘇火山博物館や熊本地震災害ミュージアムKIOKUを訪れ、科学的な視点から理解を深めました。さらに、あか牛を活用した調理実習を通して、阿蘇の宝物について再確認することができました。

現地学習

10月16日(木)、阿蘇の魅力を確認するため、全校生徒にて現地学習を行いました。



最初に阿蘇火山博物館を訪れ、学芸員の案内のもと、人と草原の関わりや営み、火山の成り立ちについて学習しました。風船をマグマだまり、小麦粉を土に見立てた火山の成り立ちを学習する実験では、興味深く実験の様子を見つめその仕組みを学ぶことができました。実験や展示資料、映像等で学習した後は、実際に火口を訪れ、阿蘇の自然の雄大さを肌で感じました。

午後からは、熊本地震災害ミュージアムKIOKUを訪れ、語り部ガイドによる見学ツ



アーに参加しました。自然との共生を深く考える時間になりました。

あか牛メニューコンテスト

1月27日(火)、「あか牛メニューコンテスト」と題し、学年別の5班に分かれて調理実習を行いました。牛しゃぶ入りの生春巻き「阿蘇巻き」や、地元のパンを使ったプルコギピザ、彩り豊かな「阿蘇のタコライス」など、工夫を凝らした料理が完成しました。校長らが審査を行い、波野産キャベツの混ぜご飯にロース

トビーフをのせた「あか牛の高原野菜丼」が優秀賞に選ばれました。

生徒からは「初めてあか牛を調理した」「あか牛は甘いと感じた」などの感想が寄せられました。これまでの学習内容をレポートにまとめることで、阿蘇の宝物を再認識する機会となりました。



case 02 南小国町立南小国中学校

南小国町赤馬場1833

阿蘇の成り立ちを学習し 自然と共生する社会を考える

第1学年での阿蘇に関するさまざまな学びを基礎に、2年生となった今年度は、あらためて阿蘇の火山や草原の成り立ちについて学習を深めました。大地の成り立ちや草原、農業等、阿蘇をはじめとするさまざまな地域での自然と共生する社会の在り方を考える時間になりました。

事前学習

11月14日(金)、現地学習前に座学にて阿蘇の自然や成り立ちについて学習を行いました。はじめに、「阿蘇が日本や世界に誇れるものは?」というテーマでグループに分かれて意見交換を行いました。「水がきれい」「自然が豊か」

「あか牛」「農業」「カルデラ」「阿蘇山」等、様々なキーワードが発表されました。その後、出てきたキーワードの中から関連付けて、阿蘇の地形はどのような特徴があるのか、野焼きは何のためにしているかなど、学習を進めました。



現地学習

11月18日(火)、阿蘇草原保全活動センターを訪れ、阿蘇の自然や草原について学習しました。事前学習で学んだことを基礎に、より学びを深める時間になりました。



映像にて、阿蘇の草原や野焼きについて大まかに学習したあと、阿蘇草原保全活動センターの職員やボランティアガイドの案内で、施設内の模型や展示物を見学しました。ジオラマを見ながら、自分たちが暮らしている場所を俯瞰的に確認し、カルデラの大きさやその中で人々が暮らしていること、自然の豊かさについて学ぶことができました。館内を見学後は、オリジナルのクロスワードに挑戦しました。学習した内容を振り返りつつ、館内の展示物をヒントに、楽しみなが

ら学習を深めました。

その後、草千里を訪れ、実際に草原を見たり触れたりしながら、阿蘇の雄大さを肌で体感しました。生徒の約半数が初めて草千里を歩いたということもあり、足元の植物や生き物を観察しながら、草千里を散策しました。



case 03 南阿蘇村立南阿蘇中学校

南阿蘇村河陽3645

阿蘇の茅を理解し、伝える 自分たちにできる草原保全を

同校1年生は、1学期の集団宿泊学習を通して杵島岳登山や草原でのオリエンテーリングなどの活動を実施し、自然環境等について学習しました。1月30日(金)には、阿蘇市にある草原保全活動センターで講話を受け、阿蘇の茅の新たな価値を探りました。

と講話を締めくくりました。

その後、生徒は館内の展示スペースで茅に触れ、「思ったより柔らかい」と感想を述べる姿も見られました。「野焼きを見たい」「ボランティアしてみたい」といった声も聞かれ、草原を守る大切さへの理解を深めた様子でした。



case 04 熊本県立高森高等学校

高森町高森1557

草原の営みと保全の重要性を知り ランプシェードづくりに挑戦

同校の総合的な探究の時間では、地域が抱える課題の解決をめざした学習を展開しています。今年度は、1年生が茅を用いた草原資源の活用について学び、草原維持に関連するワークショップを行いました。なお、今回の成果の一部は、2026年7月開催の校内探究活動成果報告会で披露される予定です。

ワークショップ

11月5日(水)、1年生80名を対象に、公益財団法人阿蘇グリーンストックのスタッフによる講話とワークショップが行われました。

阿蘇地域外からの通学が6割を占める同校では、「茅」という言葉を初めて聞く生徒も多く、草原の仕組みや生物多様性などについて、皆真剣に耳を傾けていました。

ワークショップでは10班に分かれ、阿蘇の茅や竹を使ったランプシェードづくりに挑戦。竹筒と同じ長さに茅を切る工程では、「意外と硬い」とハサミを手に苦戦する姿も見られました。高さや量で趣が変わる茅の穂先の配置では、穂の向きを調整するなど、かなり集中していた様子。その後、それぞれの個性が光る作品が完成しました。

最後は「おすすめの置き場所は?」「どのくらい保管できますか」といった質問も飛び交い、終始活気のある時間に。「茅の重要性や可能性をあらためて知って驚いた。これからは阿蘇に限らず、地球規模で自然保護に目を向けてみたい」との感想も寄せられ、有意義な学びとなりました。



学習発表

12月20日(土)、グランメッセ熊本で行われた「県立高校学びの祭典」にて、『観光業の発展で地元を元気に!-高森観光大作戦-』をメインテーマに、ポスター発表が行われました。「草原維持班」からは、ワークショップで学んだ

草原の魅力や、地元の小中学生を対象に開催した草原の草花を使ったしおり作り体験などについて発表がありました。



高森高校マスコットキャラクター あそちゃん

